

ベトナム劇映画における、革命、戦争に関する国民的記憶の創出と変容の歴史的考察

平成 16 年度入学
派遣先国：ベトナム
坂川直也

キーワード：ベトナム戦争、プロパガンダ映画、ステレオタイプ、ナショナリティ、コメモレイション（記念・顕彰行為）

対象とする問題の概要

ベトナム共産党政府は、インドシナ戦争当初から、革命、戦争が独立に不可欠かつ正当な行為であると、国内外に宣伝活動を行ってきた。1953 年 3 月 15 日、ホー・チ・ミン主席の命令書に基づき、発足した国営映画会社も例外ではなく、「政府の政策のプロパガンダ」「ベトナム軍と人民の戦績、英雄的な闘いを賞賛」する任務を担ってきた。以降、ベトナム戦争、中越戦争、カンボジア内戦を通じ、侵略者に対して、団結して戦う国民の姿を描いた、プロパガンダ映画が政府主導で数多く制作された。しかし、1987 年ドイモイ（刷新）政策導入を境に、プロパガンダ映画に反発し、国を指導した共産党、革命、社会主義に違和感を表明した、ベトナム版ニューシネマが徐々に制作される。2002 年に入り、政府が民間映画会社の設立をしぶしぶ許可、軟化したとはいえ、依然として政府は検閲を通し、映画を管理しているため、映画制作者は、不自由な創作環境に置かれている。

研究目的

本研究の目的は、ベトナム民主共和国および社会主義共和国制作の劇映画を通じ、革命と戦争のイメージを比較分析することで、以下の問いを明らかにすることにある。①プロパガンダ映画の誇張表現（プロット、ステレオタイプなど）に著目し、共産党政府が革命、戦争に関する国民レベルの「集合的記憶」を創出することで、ナショナル・アイデンティティを形成する際、強調された記憶、隠蔽された記憶は何か？ ②1987 年ドイモイ以降のニューシネマに著目し、政府公認の国民的記憶に対して、映画制作者側はいかに反発したのか？ ③2000 年以降、風化し、忘却されていく革命、戦争の記憶に対し、観客に想起を促すための映画をめぐって、共産党の「公式」な歴史解釈に基づく過去の記念・顕彰（コメモレイション）を進める政府側と映画制作者の間の妥協点、対立点は何か？ そのうえで、従来のアメリカ寄りのベトナム戦争研究に、ベトナム側の視点の導入を目指す。

フィールドワークから得られた知見について

今回の調査で、1976 年統一以前の映画に関する文字資料を多数入手できたことにより、ベトナム民主共和国初期の映画製作に関する教科書は、ソ連、中国、北朝鮮からの翻訳が中心であり、当時、上映されていたフィルムも、ベトナム国産フィルム以上に、ソ連、中国、北朝鮮、さらに東欧諸国などの社会主義国から輸入フィルムのほうが多かった史実がわかり、北ベトナムの映画は社会主義国の映画の影響

のもとで成立したことを再確認した。

フィルムアーカイブで、現在までの革命、戦争映画を調査することで、先行研究にほぼ言及されてこなかった、中越戦争、カンボジア内戦に関する戦争映画が存在し、1975年サイゴン解放以降の戦争に関するプロパガンダ映画が制作され続けたこと、時代ともに、戦争映画の数は減少するものの、ドイモイ以降にデビューした若い監督（1950、60年代生まれ）も、戦争を題材とした映画を制作している史実を確認できた。つまり、ベトナム映画全体に占める戦争映画の割合の高さは、1976年以降も、引き続き戦争に巻き込まれたベトナムの歴史との関係性が推測できた。一方、戦争映画と比較すると、革命映画の数は極端に減少していたので、博士論文では、革命映画に触れず、戦争映画に絞って、掘り下げて考察する必要を感じた。

戦争映画と映画祭授賞式関連の資料を付き合わせると、時代を経るごとに、集団での戦場シーンが減り、ベトナム社会主義国＝勝者という国民的記憶は薄れて、むしろ、亡くなった家族、友人を追悼するシーンを持つ、戦争被害者としての個人的体験に焦点を当てるフィルムが、国内で評価される傾向がうかがえた。その一方、2000年以降、政府は社会主義国に留学した旧世代の監督に、政治的任務や国民的記念日用に、戦争の勝利を記念・顕彰する（コメモレイション）映画制作を発注し、劇映画の一般的な制作費の10倍にあたる、多額の制作費を支給してきた事実もわかった。

今後の展開・反省点

反省点として、①映画関連情報を事前確認せずに、調査予定を立ててしまい、12月ハノイに滞在したため、ホーチミンで開催された、第16回ベトナム映画祭に参加できなかったこと。②ホーチミンのフィルムアーカイブ同様に、ハノイのアーカイブでも簡単にビデオ、DVDを見ることができると自分勝手に思い込み、実際、訪問したら、利用許可がなかなか下りず、難儀したこと。③ハノイのビデオライブラリーが建設中とは知らず、職員が普通に働いているオフィスで映像資料を観なければならなかったこと。いずれにせよ、事前確認の重要性を痛感した。もっとも、許可が下りない間、アーカイブのまわりを、所在がなく、ウロウロしていたおかげで、心ある職員の人たちから同情され、親しくしてもらった結果、ベトナム映画関連の文字資料を多数入手することにつながった。この想定外、偶然性こそ、フィールドワークの醍醐味だと考えつつも、博士論文は計画的に完成したい。



1) ホーチミン市フィルムアーカイブ



2) 抗米戦争時代(1965-1975)の映画の回顧上映会ポスター




Trân trọng kính mời Quý vị
 Dự buổi chiếu trong Chương trình phim
 chào mừng Ngày Điện ảnh Việt Nam
 (15.3.1953 - 15.3.2010)
 Phim: (Như trong lịch chiếu ở mặt sau)
 Thời gian:ngày...../3/2010

LỊCH CHIẾU PHIM TẠI HÀ NỘI VÀ TP. HỒ CHÍ MINH
CHÀO MỪNG NGÀY ĐIỆN ẢNH VIỆT NAM (15.3.1953 - 15.3.2010)

GHI CHÚ: ● Phim Tài liệu, hoạt hình (chữ xanh) ● Phim Truyền (chữ đỏ)
● Các buổi chiếu miễn phí ● Giấy mời có tại các điện chiếu từ 11.3.2010

THỜI GIAN	PHÒNG CHIẾU 1 RAP NGỌC KHÁNH 523 KIM MÃ, HÀ NỘI	PHÒNG CHIẾU 2 (TẦNG 2) TT CHIẾU PHIM QUỐC GIA 87 LĂNG HÀ, HÀ NỘI	PHÒNG CHIẾU 3 (PHÒNG CHIẾU 3) 45 HÀNG BÀ, HÀ NỘI	PHÒNG CHIẾU 4 RAP THẮNG LONG A 19 CAO THẮNG, P.2, Q.3 TP. HCM	PHÒNG CHIẾU 5 RAP FAFILM, 6 THÁI VÂN LUNG P. BẾN NGHÉ, Q.1, TP. HCM	PHÒNG CHIẾU 6 RAP TÂN SƠN NHẤT 186 NGUYỄN VĂN TRÚ, P.2 Q. TÂN BÌNH, TP. HCM
12/3 19h30	- Giữ làng, giữ nước - Chung một dòng sông					
13/3 9h00	- Hồ Chí Minh Chân dung một con người - Vợ chồng A-Pô		Chung một dòng sông		Đời Cắt	Trăng nơi đây giăng
13/3 15h00						Mùa tem bầu
14/3 9h00	- Quanh địa ngục Cồn Tiên - Nỗi giận		1/50 giây cuộc đời - Em bé Hà Nội	- Trần Mộc Hóa - Cánh đồng hoang - Thương nhớ đồng quê		Đời cắt
14/3 15h00		- Đáng đời thằng Cáo - Mùa gió chướng			Thương nhớ đồng quê	Lưỡi trôi
15/3 9h00	- Người săn thú trên núi Đắc Sao - Đường đời		- Lũ thép Vĩnh Linh - Con chim vành khuyên	- Giữ làng, giữ nước - Chung một dòng sông		
15/3 15h00						
15/3 19h30		- Còn mãi với thời gian - Chung một dòng sông			- Đường ra phía trước - Con chim vành khuyên	- Giữ làng, giữ nước - Chung một dòng sông
20h00			- Chị Năm Kháng - Đường đời			

3) 2010 年度「ベトナム映画の日」上映イベントのチラシ